

2024年7月31日

各位

三井住友信託銀行株式会社

あいちサーキュラーエコミー推進プロジェクトでの実証について

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、愛知県(愛知県知事:大村 秀章、以下「愛知県」)が推進する「あいちサーキュラーエコミー推進プロジェクトチーム」傘下のプラスチック循環利用プロジェクトチーム(以下「本 PT」)にて廃棄プラスチック由来の原料を使用したインフレーション袋(※1)を利用する実証を行いますのでお知らせします。

愛知県は「あいちサーキュラーエコミー推進プラン」(2022年3月策定)に基づきプラスチック循環利用モデル、太陽光パネル循環利用モデル、繊維・衣類循環利用モデル、リペア・リビルドモデル、食品循環利用モデル、未利用木材循環利用モデルの6つの推進モデルを具体化するため、2023年1月31日にあいちサーキュラーエコミー推進プロジェクトチームを立ち上げました。当社はプロジェクトチームでの成果を社会実装につなげるべく、あいちサーキュラーエコミー推進プロジェクトチームおよび傘下の本 PT へオブザーバーとして参画しています。

本 PT では、プラスチックのリサイクルによるサーキュラーエコミーへの貢献を目指しており、取り組みの1つとして、従来サーマルリサイクル(※2)されてきた複合プラスチックをマテリアルリサイクル(※3)する技術開発を進めています。この度、当社は、本 PT オブザーバーの第一弾の取り組みとして、参画メンバーである TOPPAN 株式会社、いその株式会社、愛知プラスチック工業株式会社と共同で、TOPPAN 株式会社の工場から排出される「複合プラスチック」のペレット化および同ペレットを原料とするインフレーション袋を製造し、300枚程度を粗品袋用途として店頭でお客様へ配布させていただく実証を行います。リサイクル材を利用した製品をお客さまに手に取っていただく機会を創出することにより、利用拡大への第一歩とし、お客さまがリサイクルに目を向ける契機となることを目指しています。

三井住友トラスト・グループは、「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」をパーパスとして定義し、「社会的価値創出と経済的価値創出の両立」を経営の根幹に据え、社会課題の解決に貢献する取り組みを推進しています。

当社はサーキュラーエコミーの推進・普及を図るべく、今後も同様の実証に積極的に参加していきます。

(※1)インフレーション袋:溶融樹脂を薄いフィルム状に押し出し、同時に冷気を吹き込み、一定の大きさに膨張させることで袋状に成型する方法で製造された袋

(※2)サーマルリサイクル:物質の持つ熱エネルギーを回収するリサイクル法

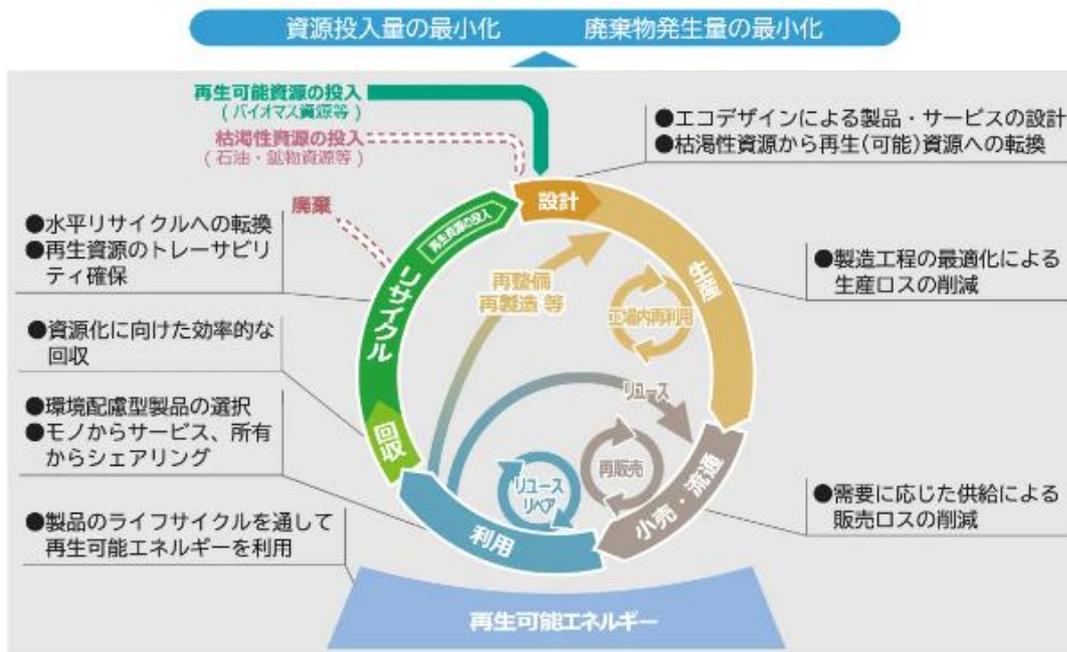
(※3)マテリアルリサイクル:廃棄物を新たな製品の原料として再利用するリサイクル法

【あいちサーキュラーエコノミー推進プロジェクトの概要】

愛知県が策定した「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」(2022年3月策定)に基づき、2022年度から2031年度までの10年間を計画期間として、サーキュラーエコノミーへの転換による循環ビジネスの進展を図るプロジェクト。

本プランに掲げた6つのサーキュラーエコノミー推進モデル(プラスチック循環利用モデル、太陽光パネル循環利用モデル、繊維・衣類循環利用モデル、リペア・リビルドモデル、食品循環利用モデル、未利用木材循環利用モデル)を具体化するプロジェクトチームに応募のあった事業者の中から、参画事業者や連携して取り組む内容を決定し、プラスチックや太陽光パネルなどの社会課題を解決する7つのプロジェクトチームを立ち上げ、参画する67事業者(延べ89事業者)が保有する高度な技術やノウハウを共有し、オープンイノベーションにより、5年を目処に事業化を目指すもの。

サーキュラーエコノミーによる循環型社会の形成のイメージ



【実証の概要】

